

巻頭言



日本補綴歯科学会の新時代へ Towards the new era for Japan Prosthodontic Society

日本補綴歯科学会 副理事長 二川浩樹
Hiroki Nikawa, DDS, PhD

令和5年6月11日、日本補綴歯科学会90周年記念式典が開催され、素晴らしい記念式典と祝賀会であったことは先生方の記憶に新しいことと思います。一方、同日、馬場理事長から窪木理事長へのバトンタッチが行われました。その窪木新体制の下で、副理事長を拝命いたしました広島大学の二川浩樹と申します。

窪木新執行部では理事・委員長が2名増員され、学術・JPR・編集・財務・広報・医療問題・診療ガイドライン・教育問題・専門医制度・専門医認定・社会連携・渉外・学会連携・規程検討・用語検討・研究企画・特命1・特命2・倫理審査・利益相反の19の委員会で構成されています。

馬場前理事長をはじめ、前執行部の並々ならぬご尽力により承認されました機構認定専門医制度につきましても、順調に推移し、日本補綴歯科学会が提供する共通研修が今年度中には開始される予定となっています。また“Journal of Prosthodontic Research (JPR)”の2022年IF値は『3.6』となり、歯学分野全体でもベスト25%の地位(Q1)を7年連続で維持しています。

本年11月5日には第8回プロソ23が近藤尚知教授大会長の下、愛知学院大学歯学部で開催されます。来春の3月29日、30日(予定)には若手研鑽会である第2回PM NexGenが(おそらく?)熱海で開催される予定になっています。若手の先生方あるいはまだまだ若いと思われる先生方には奮ってご参加いただければと思います。

日本補綴歯科学会総会・学術大会についてですが、第133回大会は令和6年7月5日～7日に河相彦教授を大会長として幕張メッセで開催されます。本大会は日本臨床栄養代謝学会との連携の調印が行われます。AAP、PCSPとの共催も行われ、英語でのセッションも予定されています。また、第134回大会は令和7年5月16日～18日に村田比呂司教授を大会長として出島メッセ長崎での開催が決まっています。会員の先生方だけでなく、歯科技工士、歯科衛生士、留学生の方の参加もお待ちしていますので、広くお声かけいただき学術大会を盛り上げていただければと思います。よろしくお祈りします。

話は変わりますが、馬場前執行部の時に特命委員長を拝命しており、鎌倉にて第1回の若手研鑽会であるPM NexGenを開催いたしました。その際に窪木副理事長(当時)が『今後の日本補綴歯科学会について』という問題提議をされ、若い先生方にワールドカフェ形式について意見を出してもらいました。その際に『学生や研修医はお金がないので、学生や研修医も参加しやすい制度を設けてほしい』や『ハンズオンを増やしてほしい』などの要望がありました。『補綴という名称の知名度が低く、患者に「補綴」と伝えても伝わらない。そのため、開業医の先生は医院のホームページに「補綴学会の認定医」と記載するよりインプラントや歯周病、老年歯科と書いたほうが患者に伝わりやすい。』との辛辣な意見も見受けられましたが、窪木新理事長の理事長講演にもありますように『日本補綴歯科学会に所属していること自体が社会的にインパクトがあり、より誇りに思える』そういう学会を目指されています。日本補綴歯科学会をより良くしていくために、微力ながら尽力していきますので、先生方のお力添えをよろしくお祈りします。